

中小企業の社会的取組みの効果



大阪商業大学
総合経営学部
教授 太田 一樹

おおた かずき

1958年生まれ。大阪商業大学教授。博士（経営学）、中小企業診断士、中小企業応援士（中小企業基盤整備機構委嘱）、日本中小企業学会副会長、日本経営診断学会幹事。大阪府立産業能率研究所・研究員、大阪経済大学教授などを経て現職。主要業績として、『深化する中小企業研究』（共著、同友館、2022年）、『中小企業研究の新地平』（共著、同友館、2022年）、『生産性向上の取組み事例と支援策』（編著、同友館、2020年）、『1からのグローバル・マーケティング』（共編著、碩学舎、2017年）、『ベンチャー・中小企業の市場創造戦略』（ミネルヴァ書房、2008年、中小企業研究奨励賞）、「競争優位の持続とビジネスシステムの変容：ケース分析を中心に」（龍谷大学経営学論集第62巻第2号、2022年）など。

社会課題に対する企業の取組み内容や姿勢に、関心や期待を持つステークホルダーは世界的に増えています。我が国においても中小企業の取組みに関心を持つ地域住民も増え、行政も地域課題解決の推進者として地域の中小企業に期待を寄せています。

その社会課題を「普遍化」し「見える化」したものの、SDGsがあります。SDGsとは「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に謳われている2016年から2030年までの17の目標と169のターゲット、132の指標からなる国際目標のことです。現在はちょうど中間地点にいますが、新型コロナウイルスや気候変動に加え、食料やエネルギー安全保障の問題が起こり、SDGs達成に向けた取組みを加速化する必要があります。2025年に開催される「日本国際博覧会(大阪・関西万博)」のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、まさに人類共通課題であるSDGsの達成も狙いの一つとなっています。

企業の社会貢献や地域貢献、SDGsなどの取組みを総称して「社会的取組み」と呼ぶとすれば、我が国においてはその取組みの普及は遅く盛り上がり機運にも欠けているのではないかと懸念があります。

「社会的取組み」は慈善的活動なので企業の成長や利益には反映しない(コストである)との意識も、経営者だけでなく支援者の一部にもあるようです。実際に、小規模事業者のSDGs取組みが持続的発展に貢献するかについて商工会・商工会議所の経営指導員に尋ねた結果をみても、「大いに貢献する」(9.1%)との回答は少なく、「どちらとも言えない」(34.6%)を含め消極的な回答が5割弱を占めています(小規模企業白書2021年版)。この状況は、中小企業の「社会的取組み」が地域

や企業にもたらす利益のメカニズムが明確に示されておらずインセンティブ不足が大きな要因だと思われます。

本稿では、中小企業の「社会的取組み」こそが、地域や企業に利益をもたらす「CRSV(Creating and Realizing Shared Value)」を実現するための活動であると、筆者は考えています。CRSVとは「地域に根ざした事業活動を行う中小企業・小規模事業者が、事業を通じて地域課題を解決することにより、その地域が元気になり、その恩恵を、地域課題を解決する事業を行う中小企業・小規模事業者が享受するという考え方」(中小企業白書2014年版)のことです。この概念は、事業者や金融機関、行政からも一定の評価を得ています(小規模企業白書2023年版)。

この概念を実現させるメカニズムですが、簡単に説明すると、社会的・文化的に地域社会とともに発展してきた中小企業(地域に埋め込まれた存在)が立地する地域(コミュニティ)には、社会関係資本(信頼、規範、ネットワークというソフトな関係資産)が生成しています。その資本を活用すれば、中小企業の「社会的取組み」には2つの効果が働きます。

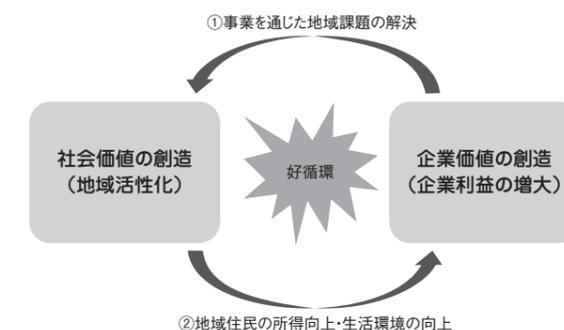
- ①直接効果としてはシグナリング効果があり、社会活動に取り組むことでポジティブなメッセージを発信することにつながります(大企業の取組みが典型例)。
- ②間接効果としては、経営者や従業員の地域住民としての取組みが、社会関係資本の蓄積を介して地域価値や企業業績(無形資産の蓄積も含む)に貢献します。

中小企業の「社会的取組み」は、地域価値の創造や事業機会の拡大につながる投資活動の一つだと言えます。また、経営理念(地域貢献や社会的

責任を掲げている企業が多い)を具現化する活動でもあり、事業承継のように時代をまたぐ組織文化の継承にも、地域との相互作用を介して長期的・持続的に貢献していくことになります。

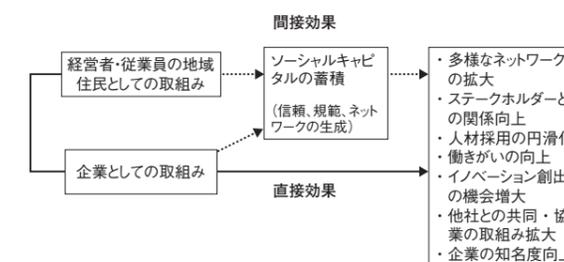
このメカニズムの住民への理解促進と、企業と地域の取組み努力が、「社会的取組み」の好循環を駆動させることになります。

図1 CRSVとは



出所：中小企業白書(2014)p.448

図2 「社会的取組み」が利益を創出するメカニズム



社会関係資本とは「人々がつくる社会的ネットワークで生まれる共有された規範、価値、理解と信頼が、そのネットワークに属する人々間の協力を推進し、共通の目的と相互の利益を実現することに貢献する」。

※詳しくは福田監修・太田編著『コンサルティングの本質』同友館、2023年9月刊行予定を参照してください。